神戸市シルバーカレッジ　講義概要（シラバス）

コース 専　攻	国際交流・協力コース　　専攻	対象学年	1年
講義日	令和　7年　1月　23日（木）		
テーマ	現代日本社会における外国人との共生にかかる実情と問題点		
講　師	関西学院大学　人間福祉学部教授　武田丈		

講義内容

1. ねらい

多様化・増加する日本在住の外国にルーツを持つ人たちとの多文化共生の実情と課題を理解したうえで、多文化共生社会の実現に必要なことについて議論する。

2. 主な内容

(1)在留外国人数

日本で生活する外国にルーツのある人たちを、国籍別、在留格別等で理解する。

(2)日本で生活する外国にルーツのある人たちがぶつかる3つの壁

言葉の壁、制度の壁、こころの壁を理解する。

(3)日本の多文化共生施策

総務省、文科省、文化庁などの施策を理解する。

(4)マクロアグレッション

意図しない偏見や差別をしないために気をつけるべきこと理解する。

講師からのメッセージ

日本社会の中で多様化・増加する外国にルーツを持つ人たちとの多文化共生の実情と課題を学んでいただいたうえで、日本が本当の多文化共生社会となるためには何が必要かを一緒に考えることができればと思います。

神戸市シルバーカレッジ　講義概要（シラバス）

コース 専　攻	国際交流･協力コース　　専攻	対象学年	1　年
講義日	令和　7　年　1　月　16　日（ 木　）		
テーマ	**シンガポールとベトナムからみたアジアの未来への想像から創造へ！**		
講　師	桂　良太郎		

講義内容

序　ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ、ﾍﾞﾄﾅﾑってどんな国？

はじめに　ーｱｼﾞｱを読み解くためのキーワードからー

１．　今なぜアジアの福祉、しかもなぜ ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙと
ﾍﾞﾄﾅﾑなのか？！

２．　ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙとﾍﾞﾄﾅﾑの未来像の重要性
-高齢者問題の視点から-

３．　両国の福祉政策研究から見た未来のアジア

４．　多文化共生社会とSDGｓ社会をめざして
ー地球村は再生できないのか？-特定技能実習生問題から
移民基本法制定にむけてー

おわりにー今後の課題と展望、五つの提言から―

講師からのメッセージ

これまでの日本の社会福祉制度やサービスは主に、欧米型の制度やサービスをモデルに展開されてきたが、これからは、ｱｼﾞｱ、とりわけｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙやﾍﾞﾄﾅﾑの社会福祉の動向から、日本は、あらたな地球市民社会構築にむけてお互いに、学び直す時代が来たようです。

神戸市シルバーカレッジ　講義概要（シラバス）

コース 専　攻	国際交流･協力コース　　専攻	対象学年	1　年
講義日	令和６年12月12日（木）		
テーマ	美術文化に見る国際交流		
講　師	田中　久和		

講義内容

美術の歴史を見るとき、伝統的な表現スタイルが革新されて、新しいスタイルが生まれるときがある。このような創造をもたらすものは、美術家の個性や才能に拠るとともに、美術家が異文化との接触によって新たな刺激や影響を受けることが主な要因となるだろう。

その典型的な事例としてヨーロッパの近代美術の先駆けとなったフランスの印象派の絵画と日本の浮世絵との関係があげられる。

また２０世紀の初めに、世界の各地からパリに集まった美術家たちに影響を与えたアフリカやオセアニアなどの美術が注目される。

それまでのヨーロッパ美術の古典や伝統には見られない、斬新で生命力あふれるアフリカやオセアニアの造形表現は、現代のスタイルを求めていたヨーロッパの美術家たちに強い刺激を与え、やがて２０世紀独自の抽象形式を創造する源泉となった。

こうした異文化との出会いと新たな創造への展開について、代表的な美術家たちの作品を鑑賞しながら、具体的に見ていきたい。

図版資料を見ながら、テーマについて一緒に考えを深めていくように努めたい。

講師からのメッセージ

授業で配布する図版資料を見ながら、優れた美術作品のもつ表現力について鑑賞することを期待します。美術史に残る作品を見て、そこに何かを感じとることは、ささやかではあっても人生を豊かに過ごせる経験の一つになると思います。

神戸市シルバーカレッジ　講義概要（シラバス）

コース 専　攻	国際交流・協力コース	対象学年	1～3年
講義日	令和6年12月9日（木）		
テーマ	戦後日本外交と沖縄		
講　師	同志社大学政策学部　月村太郎		

講義内容

1945 年に敗戦してから、戦後の日本は来年に 80 年目を迎えます。日本はサンフランシスコ講和条約後に、国際社会に復帰することになりました。この間に、いわゆる連合国による占領行政は、日本の国家安全保障政策に関して大きな変化を見せます。冷戦構造の成立により、不安定な朝鮮半島情勢に鑑み、日本は西側世界、特に米国によるグローバル安全保障政策のアジアにおける橋頭堡の役割を担うことになりました。しかし日本国憲法の規定により、日本は、十全の規模・装備を有する「軍隊」を持つことはありませんでした。このことは、国家安全保障の根幹を米国に委ねるという、防衛問題の根源的課題を日本に突きつける一方で、そうであるが故に多くの資源を経済発展に振り向け、非常に稀な経済成長を遂げることができました。そして、経済大国になった日本による政府開発援助が、多くのアジア諸国の発展に繋がったことも事実です。この講義の前半では、国家安全保障だけでなく、それと並んで外交を支えてきた両輪である政府開発援助の実態にも触れながら、戦後の日本外交を振り返ってみます。

講義の後半には、沖縄に焦点を当ててみたいと思います。沖縄は、アジアにおける米国の地域的安全保障の中心のひとつですが、その点について、我々の理解はどこまで進んでいるのでしょうか。隣国の圧力が強化されているのであればある程、我々は沖縄に対する理解を深めなくてはいけないと思います。

日本の国家安全保障政策について論ずると、国家的合意の位置がどの辺りにあるのかについて必ずしも明らかではないので、政治化、イデオロギー化してしまうことが良くあります。この講義を通じて、日本の戦後外交について理解を、一緒に含めていきたいと思います。

講師からのメッセージ

この講義で取り上げられないことについても、日本外交について皆さんが普段から感じている疑問がありましたら、是非とも講師に問いかけてみてください。

神戸市シルバーカレッジ　講義概要（シラバス）

コース 専　攻	国際交流・協力コース　　専攻	対象学年	1　年
講義日	令和６年７月18日（木）		
テーマ	コミュニケーション論　―日本語をコミュニケーションの立場から考える―		
講　師	水野　マリ子		

講義内容

1．ねらい

日本語は世界の言語の中で、「難しい言葉」でしょうか？日本語は、「非論理的な言葉」でしょうか？世界の数多くの言語の中で、日本語はどのような特徴があるのか、概観します。そして、実際に外国人とコミュニケーションを取る場合に、「やっぱり、英語ができないとね。」という考えから、「ああ、これなら日本語でも行けるかも？！」という方向へ話を進めます。

2．主な内容

（1）　世界の言語と日本語

世界には様々な言語があり、その言語使用者の数から見ると、中国語や英語のように、多くの人々に使われている言語もあれば、ごく少数の人たちの使用言語まで、様々です。このような世界の言語を形や使い方の異同について、簡単に見比べます。そして、日本語にはどのような特徴があるのか、日本人が外国人とコミュニケーションを図っていくときに、課題となるような点は何かを見ます。

（2）　「やさしい日本語」の世界

近年、日本と関わりを持つ外国人の中に、日本語を学習する人が増えています。昔に比べれば、なんとか日本語でコミュニケーションできる人が皆さんの周りにも多くなっていませんか？とはいえ、漢字まで読みこなして、日本人と同じように話せる人は多くありません。そこで、日本人が「やさしい日本語」のスキルを使って、少し日本語がわかる外国人と、よりよいコミュニケーションが図れる具体的な方法を提案します。

講師からのメッセージ

授業では、受講者の皆さんの積極的な参加を望みます。授業中、いくつか課題を出しますので、一緒に考えてください。

神戸市シルバーカレッジ　講義概要（シラバス）

コース 専　攻	国際協力・交流コース	学年	1年
講義日	令和６年　5月17 日（金）		
テーマ	PHD 協会の活動　～生きることは分かち合い、弱き者と～		
講　師	公益財団法人 PHD 協会　事務局長　坂西卓郎		

講義内容

1．ねらい
神戸の国際協力 NGO である PHD 協会の活動を通じて、国際協力・多文化共生への理解を深める

2．主な内容

午前：PHD 協会の活動紹介及び SDGs導入、じゃんけんワークショップを通じて国際協力への理解を深める。時間があれば国内での難民、避難民、困窮外国人支援についても紹介する。

午後：PHD 協会2024 年度研修生としてインドネシアの方、ミャンマーの方にそれぞれ日本語で就寝地域の状況や日本での研修目的などを報告してもらう。各研修生のテーマは以下の通りである。

インドネシア・チャチャさん：現在、村の協同組合で活動中。村にある農産物の加工などをテーマに日本で学ぶ。帰国後は協同組合の職員として活動予定。

ミャンマー・イさん：500 人の孤児が暮らす孤児院の先生。自身も 12 歳の時に貧困が理由で孤児院に身を寄せ、以後孤児院で暮らす。現在は孤児院、そしてお世話になった住職への恩返しの気持ちで子どもたちへの初等教育や生活指導を担う。

講師からのメッセージ

例年、国際友の会の皆さんには上記研修生への日本語教育でお世話になっています。当日は研修生達がお世話になった日本語で精一杯発表させていただきます。ぜひ研修生達の声を聴いてもらえたらと思います。

神戸市シルバーカレッジ　講義概要（シラバス）

コース 専　攻	国際交流・協力　コース	対象学年	1　年
講義日	令和　6　年　4　月　18　日（木）		
テーマ	文化人類学と異文化理解―オセアニアを中心として		
講　師	吉岡政徳		

講義内容

本講義は、以下の内容で進めます。

1　文化と自文化中心主義

私たちは、無意識のうちに自分が生まれ育ったところの文化的フィルターを通して、異文化を見てしまいます。こうした色眼鏡を通して異文化を見てしまうことを、自文化中心主義と呼びます。ここでは、こうした「偏見」が生まれる背景を考えていきます。

2　進化主義から文化相対主義へ

進化主義は、すべての社会は未開から文明へと進化していくという考えかたに基づいたものですが、この考えは文化相対主義によって批判されたました。ここでは、こうした考え方の推移について考えます。

3　フィールドワークと人類学

文化相対主義を実践するのが、フィールドワークと呼ばれる長期の現地調査です。文化人類学の行うフィールドワークとはどういうものかを考えます。

4　オセアニアとは

私がフィールドとしているオセアニアとはどういうところか、概説します。

5　「辺境としてのオセアニア」イメージ

オセアニアは常に辺境のイメージで語られてきました。ここでは、こうしたイメージを創り出す色眼鏡の元凶を考えます。

6　近代を生きるオセアニア

我々と同時代を生きているオセアニアを考えます。

講師からのメッセージ

質問があったら、私の話を中断してもかまいませんので、その場で手を挙げてください。質問への回答を先にしてから、話を続けます。

神戸市シルバーカレッジ　講義概要（シラバス）

コース 専　攻	国際交流・協力コース	対象学年	1年
講義日	令和　6年　4月　11日（木）		
テーマ	韓国社会と文化の理解		
講　師	神戸女学院大学非常勤講師　金　泰賢（キム　テヒョン）		

講義内容

第1部　韓国社会の全般について

韓国は、1950～60 年代には世界でもっとも貧しい国の一つでしたが、最近は世界 10 位前後の経済規模（GDP 基準）を持つ国にまで成長しました。ところがこのような経済の高度成長の裏には激しい競争や貧富の格差など様々な社会問題を残してきました。この授業では韓国社会全般の変化の過程や現状、問題点などについて幅広く紹介します。

第2部　韓国の食文化について

大型スーパーに置いてある色んな種類のキムチや韓国のお酒、外国の加工食品を扱っている店に必ずおいてある韓国のインスタントラーメンやレトルトのサムゲタン（参鶏湯）、テレビのショッピングにたびたび登場する韓国風調味料、韓国の食べ物だけを扱う専門のスーパーなど、韓国発の「食」はすでに身近な存在となっています。一度食べたことのある、もしくは、聞いたり見たことのある韓国の「食」について紹介します。

講師からのメッセージ

韓国からやってきた友人から韓国のことを聞くような雰囲気の授業ができたらうれしいです。よろしくお願いします。